

「de mano(で まあの)」は、牛豚肉を加工する「まあの」が発行するミニコミです。生産地の様子や生産者の声、「まあの」からのお知らせや小村の個人的な関心事などを掲載しています。

「mano」はエスペラント語で「手」の意味です。生産と消費が「手」つなぐ肉流通を作り、「手」作業主体の職人の技術で肉を加工するという意を込めています。

まあのから  
de mano  
エスペラント語で「mano」は「手」、  
「de」は「～から」という前置詞です。

発行:まあの 【火曜定休】

兵庫県尼崎市戸ノ内町5丁目8-6

☎ 06-6495-2546

☎ 06-6495-2900

✉ mano0298@snow.plala.or.jp

## リニアが南アルプスの生き物の命を奪う

### 第23回リニア勉強会 3月2日

今回の講師は服部隆さん。わざわざ静岡から来られました。もう70歳を超えておられますが、元気いっぱい。若い頃から山を愛する登山家です。

去年夏に南アルプス大井川源流部をテン泊しながら、5人の山仲間と沢を調査してこられた、その報告です。「南アルプス南部、大井川最上流部を貫くりニアトンネル工事によって地下水脈が抜ければ、源流生態系は壊滅的打撃を受ける。そこに棲む生き物は、植物は、森は一体どうなる」として「JR東海などネクタイを締めて、南アルプスに愛もない“専門家”たちに任せるのではなく、我々“山屋”こそが自分の脚で、自分の目で、五感を駆使して、自然の姿を確かめようと思った」服部さんは、仲間に声をかけて去年の7月20日から22日にかけて、登山道もない蛇抜沢遡行を決行しました。

その一部始終を服部さんがヘッドカメラを付けて撮影しています。瀑流帯を、次から次に現れる滝を巻きながら一歩ずつ登っていく様は大迫力です。一挙手一投足が命がけです。岩場にふと小さな花を見つけ、心を和ませます。また岩の上に立派なクマの糞もあります。「こりゃ新しいよ」。途中適当な平場を見つけテン泊です。自然に抱かれるひと時。翌日夜明けとともに出発。「岸壁のクライミングから開放空間へのドラスティックな展開。“荒川岳の瞳”であり、まさに天を映す鏡である“天鏡池”を確認で



きた喜びとその感動、そして万の助カールの赤色チャートの筆舌に尽くしがたい美しさ。様々な野鳥の声も聞こえ、まさに桃源郷のよう。天鏡池は地図などないので探し出します。ダケカンバの獣道を辿って行って発見。鹿が逃げていきます。やっぱりこの池も生き物たちが命をつなぐ大切な水場なのです。リニア工事でもし水が枯れてしまったら、多くの動物たちが困るでしょう。服部さんたちは改めてリニア工事を止めないといけないと、心に刻むのでした。さらに登っていき「遂に万の助カールに入った。標高2900m。小雪渓が2つ残っている。風化した大小の赤色チャートの庭園が非常に美しい」。ライチョウの親子にも会います。その後悪沢岳、千枚岳に登頂し、千枚小屋キャンプ地にテントを張り、翌日下山されたのでした。

この蛇抜沢はリニア工事で、まず水が抜けるとされます。服部さんは力を込めて「もしそうなれば、南アルプス南部の豊かな生態系を大きく損なう、犯罪的破壊行為である。今回この沢を初めて遡行し、その美しさ、すばらしさに触れ、価値に気づいたことは有意義だった」と記しています。そして、「リニア工事のように、環境破壊リスクが大きいと想定される場合は、開発より自然環境保全を優先させる「予防原則」の理念に基づいた「生態系優先保全法」のような、開発を規制する強力な立法の確立が必要と思う」と、締めくくられています。

服部さんは「南アルプスにトンネルを掘ると聞いて、自分のお腹に穴をあけられるような苦しさだった」と言っておられました。事業者にはこのような人間的な感性を持って、仕事してほしいものです。

**1月末まで雪がありませんでした**

希望農場・2月農場たより 清野光弘

今年の北海道は、地域によって雪の量に大きな違

いが出ています。ここ厚真町は暖冬なのか、今年の冬は1月末まで全く積雪がありませんでした。しかし、2月11日の祝日、猛吹雪に見舞われました。あたり一面雪景色に変わってしまったのです。放牧豚たちも、さすがにこの猛吹雪の中、農場に出ることができなくて、吹き抜けのテントの中に体を寄せ合っていて、吹雪をしのいでいました。千歳空港でも、猛吹雪で欠航便が相次ぎ、空港内に寝泊まりした人たちまでいました。そして翌日の12日。今度は、朝から雨が降り、昨日降った雪が完全に溶けてなくなりました。どうなっているのでしょうか？ この天候。

札幌市の雪まつりは、今年も観光客であふれていました。インバウンドの人たちが、かなり来ていたようです。そして11日に雪まつりが終了し、観光客の人たちが帰る飛行機が欠航になり、さきほどの千歳空港でのできごとになってしまいました。

放牧豚たちは、温かく、雪の少ない農場で、元気に走り回っています。夜も今年はマイナス10℃以下になることがなく、過ごしやすい冬になっています。そして、日中はプラスの気温になります。白い息を吐きながら飼料を食べています。例年思うことですが、豚たちは寒さに強いと。

皆様のところの冬はいかがなのでしょう？ 温暖な冬なのでしょう？ または、北陸、東北のような大雪に見舞われているのでしょうか？ 身体には十分、気をつけてお過ごしください。

温かく、桜が咲く春がもうすぐにやってきます。

とはいえ、まだまだ寒さが続く北海道厚真町ですが、みなさまに美味しいお肉をお届けできるよう、頑張っています。



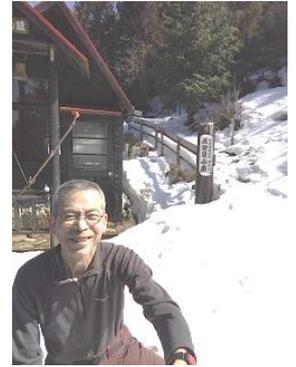
吹雪の中、身体を寄せ合っている放牧豚

## 山の記録

### 綿向山(滋賀県日野町) 3月10日

鈴鹿の御池岳に登るつもりでアクセスの国道も調べたのですが、行ってみると「雪で通行止め」。もう一本南の国道も「チェーン規制」。今年は雪が多い。

やむなく地図で近くを調べて、20年以上前に一度登った「綿向山」にします。ここは国道に面していて、登山口まで雪が積もることはありません。駐車場には数台。大がかりな登山道拡幅工事をやっていて、ブルの跡が痛ましい。五合目小屋から一挙に雪が増えて元の道です。雪道には杉の落ち葉を敷き詰めてくれてあり、滑らず歩きやすい。七合目を過ぎて、急斜面があります。雪に氷が混じって凍っており、足がかけられません。立木につかまり、横歩きで斜めに足をかけます。雪のないところを探して遠回りします。最後は四つん這いで、相当難儀しました。



2時間かかって頂上です。先客が一人おられました。雪山にも慣れてはるようで、チェンスパイクを付けておられます。「七合目の凍り付いた斜面は厳しかった



ですね」「いやー、私も大変でした」「車は数台停まっていたけど…」「私の時は一台だけ。他は工事関係者かな?」。写真も撮ってもらいました。「お先に」と下り始めます。上りと下りでは見える風景が違います。ピンクテープが全く見えなくなり、尾根が二手に分かれていて相当焦りました。かなり先にテープを見つけて、ほっと安心。表示は全くないので、特に雪山ではテープが命綱です。

ほとんど下に下りてきてもう少しで駐車場なのに、また分れ道を間違えて林道を進んでしまい、時間をロスしました。道を覚えられない人です。

## ニクヤノツブヤキ

- ◇ まあのの歴史上初めてミーティングを中止せざるを得ませんでした。雪で大鹿村の生産者が来れなかったのです。皆さんにもご迷惑をおかけしました。(幸治)
- ◇ 以前お伝えしましたが、まあのホームページは3月末で終了します。内容は2023年の7月に更新して以降変わっていませんが、ちょっと寂しいです。(幸子)